



いこいな
©シンエイ/西東京市

広報

にしとうきょう

第3回
にしとうきょう
環境
アワード

企画賞
受賞

持続可能な未来を創るチカラ

西東京市では、脱炭素社会につながる環境にやさしい行動を推進し、まちづくりを進めています。その取組の一つである「にしとうきょう環境アワード」は、積極的に優れた環境活動を行う方々を表彰しています。第3回目となる今回、斬新で今後の広がりが期待される「企画賞」を受賞した3組を紹介します。サステナブル(持続可能)な習慣を考えるきっかけにしてみませんか？



受賞
01

未来のために「おさがり市」で リユース&ママ交流

きっかけは、子どもたちの服をもらってもらえないかと思ったこと。きれいなうちにサイズアウトしがちな子ども服は、捨てるにはもったいない。親戚や友達にはちょうど譲る時期の子どもがいない。フリマアプリに出すのは、忙しいときには面倒くさい。まずはママ向けのヨガ教室でおさがり服を広げてみたところ、大変喜ばれました。この循環を続けるには？と企画したのが「おさがり市」です。

環境問題に関心がない人はいても、関係のない人は一人もいません。知らないことで、日常のふとした行動が環境の悪化に加担してしまっていることもある。だから、まず「知る」ことが大切だと思っています。

この活動を通して、環境について「知ろう」とする人が増えるきっかけになれたことが、とても良かったと思います。今後も、環境にもママにもやさしい地域活動を続けていきます。

取組内容

子ども服の無料譲渡会を月に1度実施。リユースによるごみの削減とともに、地域のママの交流の場となっている。おさがり市では、環境問題に関するPOPや紙芝居なども実施し、環境への関心がない方にも、楽しみながら興味を持ってもらえるように取り組んでいる。

開催
16回となり、
輪が広がって
います！



大森 麻衣さん



受賞
02

「楽しみながら」が エコ活の秘訣

三中では、学年ごとにSDGsについて考え、学ぶ機会があります。環境保全活動は続けているとマンネリ化してしまい、参加が少なくなります。今回は投票企画でしたが、さまざまな取組を継続するには、楽しみながら続けることが大事だと思います。ペットボトルのキャップとカイロ回収以外にも、生徒会の発信や事務、管理もデジタル化を進めています。効率化をしながらも、タイムリーにみんなの意見を聞ける「アンケート」や「匿名いけデジ(デジタル意見箱)」、各委員会の報告書などのペーパーレス化もSDGsにつながる取組です。

みんながいろいろなアイデアを出し、話し合いながら進めるからこそ、小さな取組が、大きな成果を残すのだと思っています。生徒会は代替わりしますが、継承できるようにしていきます。

取組内容

エコキャップ運動(ペットボトルのキャップ)や使い捨てカイロを、年間を通しさまざまな投票企画で回収。どのお菓子が好き？夏休みを過ごすならどこ？など楽しみながら取り組む発信で、より多くの回収数を短期間で達成。

田無第三中学校生徒会



受賞
03

学んで、シェアして、 環境を考えるきっかけづくり

ニュースで環境問題について見るが多くなり、自分たちができることはないかと考えました。まずは、同世代が環境問題についてどのように考えているのかを知りたくて、アンケートを実施。思っているよりも関心は高く、ごみの分別やエコバッグは習慣化できていることが分かりました。また、環境問題や気候変動により関心を持ってもらうため、マイクロプラスチックを題材にした映画を自主上映しました。回数を重ねるごとに参加者が増え、うれしかったです。映画上映は、まだ学校内では実現できていないので、ぜひみんなにも見てもらえるように生徒会や先生と相談していきます。

私たちの行動はほんの一步かもしれませんが、でも身近な人の行動は影響力があると思うし、小さな活動を続けることが、大きな活動につながっていくと思っています。

取組内容

青嵐中学校2年生を対象に、環境問題を考えるアンケートを実施。集計結果をまとめて壁新聞にし、校内に掲示。また、小学生がプラスチック汚染問題に取り組むアメリカの映画を、映画監督に直接交渉し無償提供を獲得。市内3カ所自主上映した結果、多くの方が環境問題を考えるきっかけづくりに寄与。

アンケートには
148人が
協力して
くれました！



青嵐中学校有志